

第 25 号 VVK 加盟の SHG の数が増えたらそれでいいワケ？ &
「お金が使えない！」その理由

(2006 年 9 月 30 日発行)

～ VVK 加盟の SHG の数が増えたらそれでいいワケ？ ～

VVK(9)に加盟する SHG が 22 となった 9 月末の VVK 月別定例ミーティング。

オバチャンたちは、VVK に加盟する SHG の数を増やし、団体登録後、銀行業を始めるために、SHG から会費を集め、月々の 10 ルピーからの貯蓄を全メンバーからコツコツと集めている。

幸か不幸か、政府の役人の嫌がらせで団体登録ができない状態が 3 ヶ月間続いているので、念願の銀行業は未だ開始できず、VVK の通帳にはメンバーからの会費と月々の貯蓄が貯まっています。詳細は、今号文末の <団体登録(MACS 法)への道のり>を参照。

オバチャンたちは、必死で VVK 加盟グループを勧誘しているが、さらにその数を増やすため、どうやって勧誘してゆくか、先月から議論が続いている。

先月の VVK 月別定例ミーティングで決まったことは、VVK に加盟したすべてのグループは、新しく 2 つの SHG を勧誘すること。これじゃまるでネズミ講だ。しかし 9 月のミーティングで、2 つの SHG を勧誘してきたグループはゼロ。

そこで、なぜ各グループが 2 つの SHG を勧誘してこなかったか(出来なかったか)という議論はされることのないまま、新たに、10 月のミーティングまでに各グループ最低 1 つは新しく VVK に加盟する SHG を勧誘してくること、という議論がされた 9 月の定例ミーティング。

すっかり VVK 加盟グループの数を増やすことばかりに必死になって、他のことはナニも見えなくなっているオバチャンたちに、黄門様(6)が。。。

黄門様:「おまえさんたち、ちょっとワシが発言してもよいかな？」

議長オバチャン:「はい、どうぞ」

黄門様:「ここにバケツがあるとしよう。このバケツの名前は VVK じゃ。」

オバチャン 1:「??? (心の声)またまた黄門様のたとえ話が始まっちゃった。またアタシら怒られちゃうのだからなあ。」

黄門様:「このバケツに水を入れようとする。ところが、バケツの側面にも底にもいくつか穴が空いておったら、バケツに入れた水はどうなる？」

オバチャン 2:「もちろんバケツからこぼれて、バケツの水は入れても入れてもいっぱいになりません。」

黄門様:「そうじゃな。じゃあ今度は違う質問をするが、VVK に新たな SHG が加盟したとしよう。するとそのグループは加盟後どうなるのじゃ？」

すぐに答えられない VVK オバちゃんたち。

それもそのはず、しょっちゅう、新しく加盟したグループへの手続きは変更されている。たとえば VVK 加盟の申請書を提出してから、VVK メンバーによるモニタリングが 2 ヶ月あって、2 ヶ月後に VVK の会費を払って、その後、ようやく研修が受けられるとか。このルールを決めた VVK メンバーたち、モニタリングの 2 ヶ月間、特に大したモニタリングもせずに、新規加盟グループはナンの研修も受けられずにいた。

黄門様：「おまえさんたち、すぐに答えられないだろう。おまえさんたちは、底がないバケツなのじゃ。おまえさんたちは VVK 加盟する SHG の数を増やそうと必死になっておるが、VVK というバケツは底がなくて、しかも側面は穴だらけ。だから、どれだけ水(新しい SHG)を入れても、どんどんその穴や底から水は出てゆくのだじゃ。」

オバちゃん一同：「……わかったわ。どうしたらその穴を埋められるの？」

黄門様：「まずは、VVK 加盟の申請書を提出したグループに即、研修を実施するのじゃ。1 週間以内にな。その研修は内部資金運用と帳簿付け、そして次に VVK 会則じゃ。おまえさんたちで、その研修はもう出来るじゃろう？」

オバちゃん 3：「はい、もちろん。じゃあ月に 2 回、毎月 5、6 日、20 日と 21 日に新規グループへの研修を定期的に行うことにします！！」

黄門様：「まあ待て待て。具体的な日程など、後で話し合っ決めてもいいのだぞ。」

オバちゃん 4：「いや、後ではダメです。今決めます。えっと研修指導員は、あの人、とこの人と、合計 4 人ね。決定！」

オバちゃん一同：「賛成！ヨ～シ、研修を月に 2 回やるわよー！！バケツの底や穴をふさいで、水が出ていかないようにするわよー！！」

黄門様：「おまえさんたちは、“ナニと言われる = すぐ実行”、じゃな、いつも。後で考えることはできないし、前に言われたこともすぐ忘れてしまうし。。仕方ないのお。。」

オバちゃん 5：「で、黄門様、研修を月に 2 回したら、次は何をすればよいの？」

黄門様：「最低 2 ヶ月はそのグループをモニターするのじゃよ。そして 2 ヶ月後に、そのグループが自分たちだけで帳簿付けができるようになり、内部資金運用もでき、VVK 会則も理解できるようになっていることが目標じゃ。まず研修に参加したメンバーが、他のグループ全員にその研修内容を伝えておるか、そしてグループメンバーがそれを理解しているかどうかを、一番にモニターせねばならんぞ。」

オバちゃん一同：「分かったわ。じゃあモニターする人は、と。。」

オバちゃんたち、理解できて、納得できたら、すぐ実行。早速、誰が研修をして、誰がモニターするのか、が決定。VVK 加盟の数が 20 になると、100 になると、加盟した SHG のほとんどが同時に脱会してゆくなら、SHG の数などナンの意味もないこと、を黄門様のバケツの例で理解したオバちゃんたち。

さて、来月のオバちゃんたちの活躍はいかに。。

～「お金が使えない！」その理由～

9月末の昼前のソムニード・インド事務所。

海からの爽やかな風と共に、ダサラ祭り(ヒンドゥー教のお祭り)用に建設された特設祠(ほこら)の劣悪スピーカーからインド映画音楽が、最大ボリュームで右脳と左脳を破壊するおだやかな日。。。とても涼しい顔をした日本人スタッフが1名。それは、JICA第2四半期報告書類の作成に大忙しのアシスタント・プロジェクト・マネージャー(1)。

右手で領収書を費目別にまとめ、左手で領収書の数字をパソコンに入力し、耳は、ラジオのヒンディー映画最新情報に集中し、鼻で、隣の家の昼ご飯の献立を推量し、口では、プロマネ(2)に「すみません、ちょっとこの書類を見てください」と。。。

プロマネ:「そんなに一度にいろんな仕事をしちゃダメじゃない。もっと休みながらやりなよ。」

アシスタント・プロマネ:「エーでもプロマネがこんなに仕事を押しつける、いや、仕事を任せてくれるので、休んでいる暇がないのですよ。それより、これ、この書類です。見てください！」

第1四半期、第2四半期とも、海外活動諸費(研修費や事務所維持費など)の支出金額が減っているのですよ。おかしいですねえ、VVK加盟グループも4つのSHGから22に増えたというのに。ほとんど毎日のようにVVKのメンバーはプロジェクト事務所に来て、やれ新規VVK加盟グループへの研修だ、ビジネスだ、と、この2年間でもっとも忙しそうなのに。あちこちのスラムで、SHGモニターだ、VVKへの勧誘だ、と飛び回っているというのに。こんなにVVKの活動が活発になってきているのに、どうして支出は減っているのでしょうか？」

プロマネ:「今、支出が少なくても第3四半期には研修も増えるし、教材もいっぱい作る予定だから、たぶん第1,2四半期の支出が少ない分だけ、第3四半期で支出は多くなると思うけど。。。なぜ支出が少ないか、ちょっとVVKのミーティングに行ってみて様子を見てくるわ。」

そこで、出かけた9月28日のVVK月別定例ミーティング。ここ3ヶ月ほど、毎月VVK加盟するSHGが増えてきているので、ミーティング会場は定例ミーティングに参加するおばちゃんたちで座る場所もないほど大混雑している。ソムニードのスタッフはオブザーバー参加者なので、いつも会議室の一番後ろの席に座るのだが、その場所もなく、ほとんど立ち見の状態。

ここでちょっと、オバちゃんたちの月別定例ミーティングの進め方パターンをご紹介します。

- 1)11時:ミーティング開始。(3)
- 2)11時～12時半:議題のリストアップ(多いときは20くらいの議題が上がる)
- 3)12時～13時:ミーティングに遅刻してきたSHGメンバーを罵倒しながらも、議題の優先順位をつける。
- 4)13時～14時:優先順位の高い順から討議を始める。

- 5) 14 時:最初の議題に結論がでる。この時点で、ミーティングは午後 4 時まで延長が宣言される。
- 6) 14 時 ~ 14 時半:昼食 (4)
- 7) 14 時半 ~ 16 時:討議の継続。激しい討論、議論、口論の末、議題の 7 割方に結論が出る。
- 8) 16 時 ~ 17 時:討議の継続。残り 3 割の結論のでていない議題に関して、いつまでに、誰が責任を持って対処するか、議論が続く。一応、ミーティング終了。
- 9) 17 時 ~ 18 時:結論の出ていない議題に関して、担当になったオバチャンが継続して議論を続ける。
- 10) 18 時 ~ 19 時:なんとなく 1 人、2 人と帰宅し、プロジェクト事務所施錠。

これではあまりに能率が悪いと、8 月から、VVK 代表メンバー 4、5 名が、定例ミーティングのある 28 日の前日に事前に議題をリストアップするようになった。なので、この日は上の(2)が短縮され、(それでも彼女たちが挙げた議題は 12 もある!!) 11 時から早速(3)の優先順位をつける作業に入った。(3)以下はいつも通りのパターン。

議題にあがった 12 個のうち、すべての議論をご紹介するのはタイヘンなので、最も熱い議論(口論)がおこった次の議題をご紹介する。そこに、なぜ支出が減っているのかの理由も。。。

< 議題: VVK 代表メンバーによる週ごとの活動発表と提案 > 直訳

VVK 代表ビジャラクシュミ:「では、これから毎週金曜日に、VVK 代表メンバーがどのような活動をしたが、その支出を含めてみんなに報告します。」(5)

オバチャン 1:「誰が金曜日の何時から何時まで事務所に来て活動したか、という記録はつけているの?」

VVK 会計ニルマラ:「はい、あります。ノートを 1 つ作って、誰が何をしたか、すべて記録してありますし、お金の出入りも記載しています。」

ビジャラクシュミ:「まず 9 月 1 日の金曜日には、翌 2 日の新規 VVK 加盟 SHG 研修指導員のフォローアップ研修の打ち合わせをしました。また、VVK スタッフがきちんと VVK の金銭出納帳や仕分帳をアップデートしているかも確認しました。9 月 8、15、22 日も同様に会計チェックをしました。」

VVK 会計ニルマラ:「9 月 22 日には、事務所の備品チェックをしました。文房具や洗剤などの消耗品の在庫確認もしました。」

オバチャン 2:「そうそう文房具といえば、9 月 18 日、19 日に新規 VVK 加盟の SHG に帳簿づけの研修やったじゃない? そのときに、新しいメンバーにノートと鉛筆配ったでしょう? その文房具の在庫も在庫管理ノートに、ちゃんとアップデートしているの?」

VVK 会計ニルマラ:「もちろん、このノートを見てください。」(ノートを手渡す)

オバチャン 3:「あの研修でさ、新しいグループにノートをあげたじゃない? 私、ノートはあげてもいいと思うのよね、でも、鉛筆まであげなくてもいいじゃない? だって、鉛筆は次の研修でも使えるじゃない。どうして鉛筆もあげてしまったの?」

ビジャヤラクシュミ:「えーっと、ソムニードがVVKに研修をするときは、いつも参加者にノートとペンをくれるじゃない。だけど、ペンをあげるのはペンの在庫が減るから嫌だけど、鉛筆なら安いしいかなあ、と思って、ペンでなくて鉛筆をあげたのよ。あと今、ペンの在庫も少ないし。。」

オブザーバー席にいた黄門様(6):「ケチじゃなあ、ペンくらい参加者に配ればいいじゃないか。プロマネ、プロジェクトの費用で文房具費は出しているのだから?」

プロマネ:「もちろんです!ペンの在庫が少ないとオバチャンは言っておりますが、実は8月にオバチャンたちは備品や消耗品の在庫管理もせずに、消耗品購入希望シートにペン10ダースという申請をしてきたので、在庫チェックをするまではその申請は認めない、却下したのです。9月から、代表メンバーが在庫管理を始めたので、月末には文房具や掃除道具などの消耗品の購入希望シートを提出すれば消耗品の補充はできるのですが、どうやら申請するのを忘れてしまったようです。後でVVKスタッフに伝えておきます。」

申請するのを忘れてしまった以外に、オバチャンたちの頭の中には、JICAの支援が終わる2007年6月末以降の文房具を確保するため、なるべく在庫を減らさないように、ケチケチと文房具を使っていたことが判明。

これが狡いオバチャンだと、JICAの支援があるうちにどんどん文房具やら掃除道具やらの消耗品を申請しまくり、それを次々に売って、VVKの現金収入を増やす、という手に出るだろうが、真面目なオバチャンたちは、ケチケチ路線に。。もっともそんなことをしたら、オバチャンたちのさらに上に行くケチケチ・ソムニードの会計スタッフに、真っ先にバレることがわかっているオバチャンたちは、そういうことをしないのだけだ。。

ちなみに、こうした消耗品をオバチャンたちが買いに行くこともあれば、ソムニード・スタッフが買いに行くこともある。しかし両者とも、1ルピー(約2.6円)でも安いものを購入しようと必死になる性向があり、なかなか消耗品費も使えないのであった。。

ビジャヤラクシュミ:「えーっとそれから毎週金曜日以外にも私はVVKスタッフのダナラクシュミと共に、VVKの団体登録で合計6回、登録事務所にでかけ、また担当官とのアポを取るために合計15回、登録事務所に電話をかけました。そのお金は私が立て替えておいたのですが、みんなに提案があります。VVKのお金のうち、代表の私が運営委員会の許可なく使えるお金を認めてほしいのです。」

オバチャン4:「ところで、今回、何ルピー、立て替えたの?」

ビジャヤラクシュミ:「えーとそれでは9月1日が電話代で3ルピー、9月3日が登録事務所までのバス代で7ルピー、申請書を買ったお金が30ルピー、それから、それから、、、、、、」

すべての支出を日ごとに挙げていったビジャヤラクシュミ。

オバチャン5:「1ヶ月間の合計が約150ルピーね。1日に使う金額は多くても50ルピーまでよね?じゃあ1度に50ルピー、月に200ルピーまではVVK代表が運営委員会の許可なく使

用してよいということにする？もちろんスタッフが帳簿に記載しておくことが条件だけ。」
ピジャヤラクシュミ：「私も 150 ルピーも毎月立て替えるのはタイヘンだから、一度に 50 ルピーくらい、VVK から出してもらえると助かるわ。」

それから、ギャーギャーと議論が続き、結局、代表メンバーで VVK に関連した活動をする際、VVK の小口現金から使用してよい金額は 1 度に 50 ルピー (約 130 円) となった。

オブザーバー席にいた黄門様：「たった 50 ルピーでいいのか。もう少し多めの方がいいのではないかい？」

ラマラジュ (7)：「いえいえ、黄門様 50 ルピーくらいが手堅いところでしょう。黄門様もよくご存じのように、ピシャカだけで 8 千もある SHG では、個別グループのリーダーや SHG 連合体のリーダー、政府の末端の役人や NGO のスタッフなどによる SHG の金の横領や流用は日常茶飯事なのですよ。」

オバチャンたちが昼休みに、やれ、あそこのリーダーがいくら使い込んだ、やれあそこ NGO は絶対、会計報告を出さない、とか大声で話していましたよ。もちろん VVK でもお金のトラブルで辞めさせられたスタッフがいますからねえ。(前号参照)だから VVK では絶対、そうした不正を許さないって、みんな真剣なんですねえ。」

黄門様：「VVK では誰も会計の透明性などという言葉を使わないが、鉛筆、ペン 1 本、50 ルピーで、この騒ぎだものな。ピジャヤラクシュミとしても、50 ルピーでも、VVK の許可なく使うのは怖いかもしれんな。このオバチャンたちの勢いだと。」

閑話休題・・・

黄門様、この議題の前に、今月初めて VVK の定例ミーティングに参加したというオバチャンに聞いたことが 1 つ。

黄門様：「なんでおまさんのグループは VVK に加盟しようと思ったのじゃ？」

オバチャン 1：「だってさ、VVK に入ったら、よその人の援助に頼らずに自分の SHG が自分たちで運営できるようになるって思ったからよ。」

黄門様：「どうしてそう思ったのじゃ？」

オバチャン 2：「だってアタシの近所のグループが VVK に入っていて、銀行からローンももらわずに、自分の SHG だけでお金を貸したり、返したりしてるの見てたの。それに、政府の役人とか、NGO とかに手伝ってもらわずに自分たちで帳簿づけもしているし。なんかビジネスを始めようともしているし。なんだか VVK って、とても楽しそうなんだもん。」

オバチャン 3：「ずっとアタシらのグループ VVK に入りたかったんだけどさ、この 3 ヶ月ほど、地元の有力者がプレッシャーかけてきて、政府の役人が作った SHG の連合体から脱退して、VVK に入るなら、こっちにも考えがあるって脅かすのよ。おまえらにナンのローンもやらんし、道路建設や住宅建設だっておまえらの SHG には支援してやらん、ってね。」

オバチャン4:「そうそう、それでアタシら、何度も SHG メンバーで話し合っ、VVK に入ろうか、どうか相談したんだもんね。まあ有力者からのプレッシャーはまだあるけどさ、やっぱり自分の SHG のこと、お金のこと、自分たちで管理できるようになりたいじゃない？隣の VVK に入っている SHG みたいにさ。だから、今月からようやく VVK に入ることにみんなで決めたのよ」

オバチャンたちの多くが、これまで散々、政府や NGO から「貧しく無能な受益者」扱いをされ、SHG がらみの様々なプログラムを押しつけられ、しかも脅かしや嫌がらせなどを受け続けてきた。もっとも、そうした「貧しく無能な受益者」に甘んじていれば、何かプレゼントがもらえるかもしれない、と計算していたのはオバチャンたち自身なので、政府役人も NGO スタッフもオバチャンも「援助のもたれ合い」がずっと続いているのであった。

しかし。。

VVK のオバチャンたちの活動を活発になってゆくうちに、「今までの状態を自分たちの力で変えてゆこう」という動きがあちこちで出てきている。VVK のオバチャンたちは、知ってか、知らずか、周囲のオバチャンたちに「自分たちで決めること、自分たちで組織を運営すること」のおもしろさ、大切さを、言葉でなく、実際にやってみせているのだった。

．．．．．

さてさて VVK のミーティングはこの日も延々と午後 6 時近くまで続いた。プロマネはギャーギャーと喧嘩、いや議論を続ける、オバチャンを後に、ソムニードの会計スタッフと共に、建設中の生産・物流センターの備品の買い物に出かけた。

ソムニード会計スタッフ(8):「明日、この発電機を持って、建設現場に行ってきますね。」

プロマネ:「こんな重たい発電機を持っていくのだから、車で行くのでしょうか？」

ソムニード会計スタッフ:「そうですね、建設資材の購入用のお金も持って行きますから、バスではちょっと無理ですね。車でいきます。」と、携帯電話を取り出し、タクシー会社に電話をかける。

ソムニード会計スタッフ:(電話中)えっと、明日午前 6 時に事務所に来てもらえるかな？えっ？アンバサダー(インド国産のクラシックな重量級の車)でいいよ。うんうん。えっ？エアコンなんかついてないやつでいいよ。」

プロマネ:「ちょっと、ちょっと、エアコン付きの車で行きなよ。まだ気温は 40 度近くあるんだよ。」

ソムニード会計スタッフ:(電話中)え、はいはい、じゃあまた。」電話を切る。

プロマネ:「なんでエアコン付きで行かないのよ！！」

ソムニード会計スタッフ:「いいですよ、エアコン付きだと 1 キロあたりの金額が 5 ルピーも高くなるのですよ。。。。」

プロマネ:「……」(プロマネ心の声)やはり海外活動諸費の予算がなかなか使えない。。。。10 月に VVK の団体登録が終わったら、どんどん海外活動諸費を使って、教材を作ってやるー！！

今年 4 月から印刷したい教材があれこれあるのだが、VVK メンバーが団体登録が済むまでは、教材はコピーでよい、というので何も印刷できずにいる状態。VVK のオバチャンたちは、団体登録番号を記載した印刷物が欲しいのであった。

結局、発電機と水をくみ上げるポンプセットを積むには、アンバサダーは小さいということに気づいたスタッフは、事務所の車で行くことになり、アンバサダーも借りることなく、ここでも使われたお金は、タクシーよりもずっと安くなったのであった。。

予算を使いたいプロマネ1人 VS 1 ルピーも使いたくない会計スタッフ & VVK オバチャンの熾烈な？戦いは続いているが、情勢は明らかにプロマネ劣勢。

< 前号からの続き: 団体登録 (MACS 法) への道のり >

VVK が団体登録の手続きを初めて 3 ヶ月。

9 月 30 日現在、まだ登録の証明書を手にすることができない VVK。

それでも、登録事務所の役人は、やっと団体登録料を VVK から受け取り、今は証明書の発行を待つばかりとなっている。7 月から今日まで 3 ヶ月、あれこれと団体登録の難癖をつけてきている役人のその難癖の 1 つが「賄賂」。数 100 ルピーの賄賂を払えば、おそらく明日にでも団体登録証明書を VVK は手に入れることができるだろう。しかし VVK のお金の 1 ルピーも使いたくないオバチャンたちは、何のかんのと理由をつけて賄賂を払わないまま 3 ヶ月、粘りに粘って、法律に定められた手続き通りに団体登録を進めている。

念願の VVK による銀行業もスタートに向けて、オバチャンたちの登録をめぐる戦いは、ラストパートを迎えている。続きは次号で。。

< 注意書き >

- (1) アシスタント・プロジェクト・マネージャー、前川香子。
- (2) プロジェクト・マネージャーの略。この便りの筆者。原康子
- (3) 午前 11 時の時点では、毎月「今日こそは 14 時にミーティングを終了する」と議長が宣言する。
- (4) プロジェクトの海外活動諸費から研修費の一部として、日当を出しているが、オバチャンたち、日当 70 ルピーうち、食費に 50 ルピーを各参加者が受け取り、20 ルピーをお茶代などとして VVK に納める、というルールを自分たちで決めている。以前は、食費の 50 ルピーでテイクアウトの昼ご飯(もちろんカレー)を買っていたのだが、最近ではプロジェクト事務所に来るときは必ずお弁当を持ってくるオバチャンが増えている。
- (5) PCUR-LINK 第 24 号、代表メンバーがほとんど活動していなかった話を参照。前回のミーティングの結果、役割分担をした代表メンバーは毎週金曜日プロジェクト事務所で活動するようになった。

- (6)水戸黄門、またの名を和田信明。ソムニード代表理事。
- (7)ラマラジュ:PCUR-LINK 事業担当のソムニード・スタッフ。
- (8)ソムニード会計スタッフのスリヤム。
- (9)VVK: ビシャカ・ワニタ・クランティ略。2005 年 3 月に設立されたビシャカパトナム市内スラムの複数の SHG(マイクロ・クレジットグループ)による連合体。
